

令和7(2025)年度のEPO業務 事務局案 説明資料

2025年5月28日

第1回 EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会

a. 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 (以下、**環境省事業**)の選定団体への支援

事業に選定されている団体(3地域6団体)

※①:中間支援主体、②:活動団体

- PF丹南:①ローカルSDクリエイション、②エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま
- PF長野:①長野県NPOセンター、②芋井地区住民自治協議会
- PF半田:①半田市、②半田市地域循環共生圏推進協議会

【団体への支援に加えて】

秋に、中間共有会(取組状況の中間報告)をEPO主催でエリアごとに開催

昨年度・今年度(事業選定2カ年度間)

主にプラットフォーム構築に向けたステークホルダー集め、地域の未来像づくりとその共有に注力しつつ、ローカルSDGs事業のタネづくり



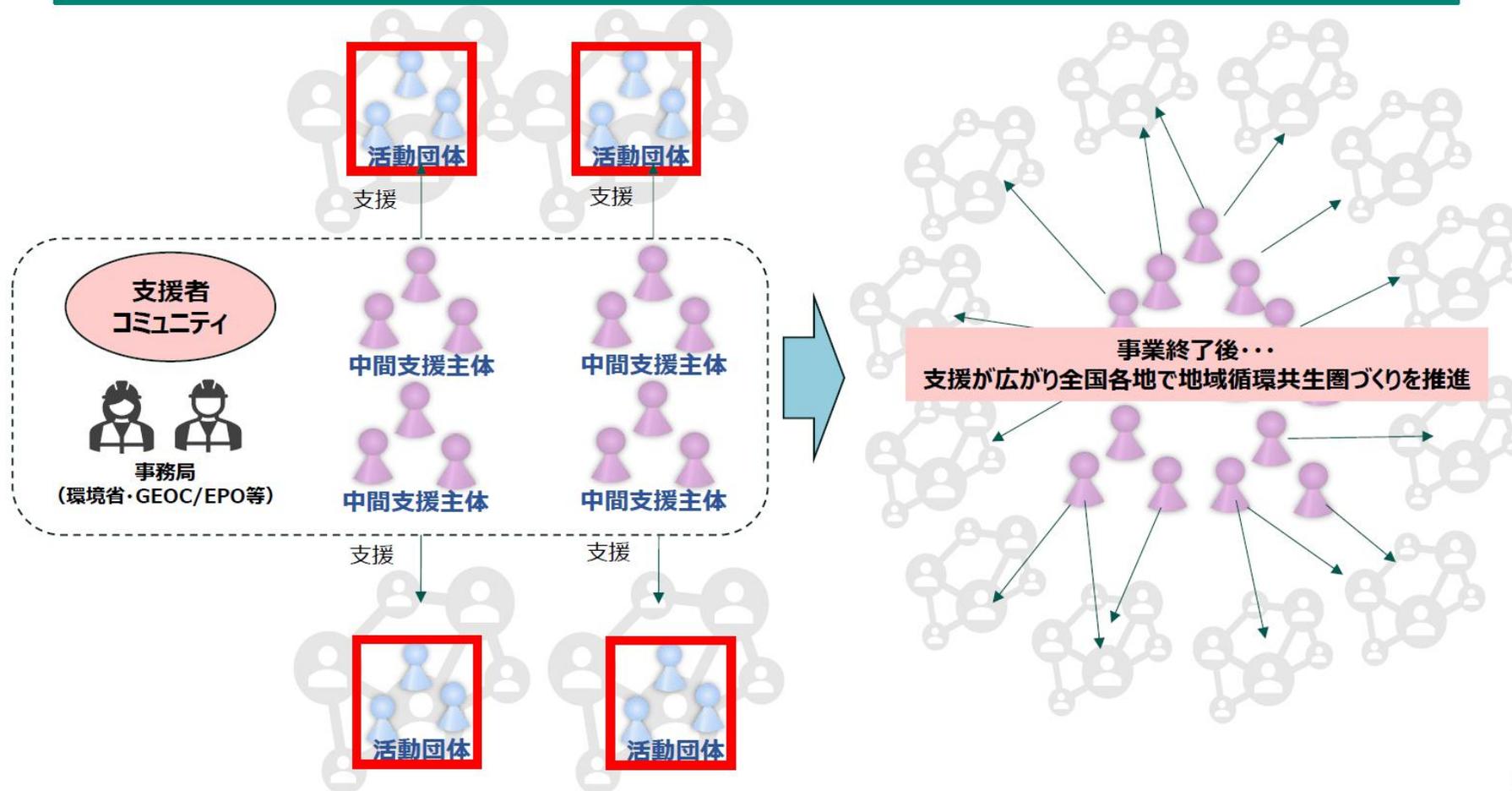
次年度・3年度目に向けて

ローカルSDGs事業の事業化、その創発が可能となるプラットフォーム発足、中間支援の横展開のための足がかり

2. 本事業の目的・実施内容

<本事業の目的>

- 各地域で「地域循環共生圏づくり」に取り組む主体（活動団体）と、それを支援できる主体（中間支援主体）を増やすこと
- 「地域循環共生圏づくり」の支援者コミュニティと支援モデルの構築⇒支援体制の強化



中間支援主体の実施内容＝「地域循環共生圏づくり」の支援

活動団体の地域循環共生圏づくりの各過程を支援。

✓ **活動団体が今、何に躓いているのか課題等を「見立て」、適切な「打ち手」を検討し、実際にその打ち手を実行する。**

✓ **支援者として、俯瞰した立場で「活動団体」の主体性を引き出し自走させる**

ー取組が停滞した際にやり方を変えるように促したり、先を見越したステップの確認をするなど、俯瞰した立場で支援したり、足りない部分を補うなど。

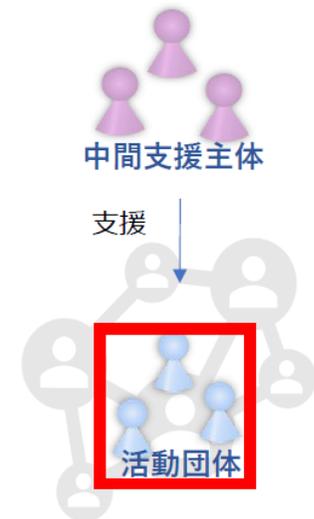
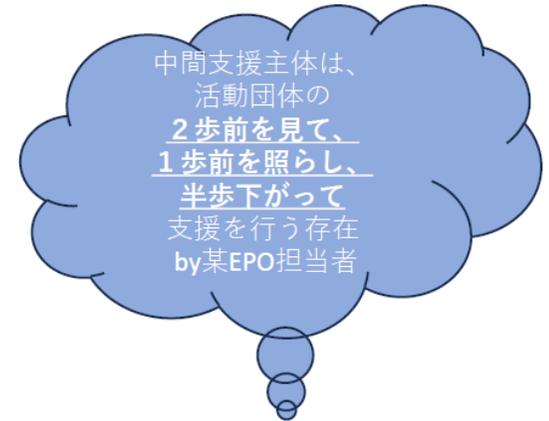
ー“中間支援主体がないと成り立たない活動”とならないよう、活動団体の主体性を引き出し自走させることが重要。

✓ **地域循環共生圏を地域の文脈に落とし込む**

ー地域循環共生圏づくりとしての、地域プラットフォームの構築及びローカルSDGs事業の創出が、その地域にとってどういう意味を持つのかなど理解しやすいように翻訳し、地域で実装していけるようにインプットしていくなど

見立てと打ち手の検討にあたっては、地方事務局と月1回以上のコミュニケーションを最大限ご活用ください。

考え方や方向性等を共有し、それらに対する助言を受けて見立てと打ち手をブラッシュアップさせましょう！



b. 自治体・協働コーディネーターとの連携による 中部独自の共生圏づくり支援

- 「中間支援」をテーマにしたセミナー（地域循環共生圏づくり支援セミナー2025）開催
- 富山県上市町で、協働コーディネーターとの協力・連携による地域循環共生圏づくり（ローカルSDGs実践）に関わる催事または会合立ち上げ等の支援
 - 協力予定のコーディネーター…(株)ティー・ツリー・コミュニケーションズ・茶木氏、PECとやま・堺氏
- 地域循環共生圏づくり普及・実践支援を目的とする具体の地域でのフォーラム開催
- 協働コーディネーター意見交換会の実施
 - 協働コーディネーターの発掘・追加
- 地域循環共生圏づくりの活動評価手法の検討：有識者による検討ワーキング（WKG）の実施（3回）
 - 検討結果をa）・b）の団体／取組へフィードバック、成果冊子とりまとめ

主催イベント／会合等

2025年度EPO中部主催イベント／会合案

※②③…仕様書項目上の「自治体・協働コーディネーターとの連携によるフォーラム等開催(計2回)」に該当

区分	エリア	設営	時期	参加者数 想定	テーマ／内容等	連携先／関係者／登壇者等
①中間支援セミナー	配信会場:名古屋市内	オンライン 配信 登壇者: 会場集合	9-12月	オンライン 無制限	共生圏づくりにおける中間支援	<ul style="list-style-type: none"> 活動主体…長野県NPOセンター、茶木氏(下記②より) 有識者…早稲田大学・島岡先生、有識者WKGメンバー(下記④より) など
②共生圏づくり支援	富山県上市町	リアル	10月 予定	30人	ローカルSDGs事業実践イベント、及びその準備プラットフォームの立ち上げ等	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度フォーラムで発案されたローカルSDGsの試行実践体験イベントとローカルSDGs事業の共創ワークショップ 上記イベントの準備委員会(仮)などプラットフォーム会合
③共生圏フォーラム	未定	リアル	未定	30-50人	「地域循環共生圏フォーラムin〇〇」シリーズ企画 ※開催地域未定	<ul style="list-style-type: none"> 地域(自治体等)及び協働コーディネーターとの連携企画
④協働コーディネーター意見交換会	会場:名古屋市内	リアル	9月 3日	10人	地域活動主体の課題、中間支援のあり方・ヨコ展開の可能性	<ul style="list-style-type: none"> 協働コーディネーター 協働コーディネーター候補(推薦された方など想定) ※場合によっては地球環境基金業務との連動企画
⑤活動評価手法検討WKG(全3回)	富山	リアル (オンライン併用)	6月 2日	メンバー 3人	「6つの資本」など活動評価に関するR6成果の検証とバージョンアップ	<ul style="list-style-type: none"> メンバー(継続): <ul style="list-style-type: none"> 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター長 教授、中部ESD拠点協議会事務局長 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表 堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長
	福井		7月頃	メンバー 3人	中間支援に関する評価手法の検討と活動評価との連携	
	名古屋		8月頃	メンバー 3人	とりまとめ方針の検討、事例検証方法についての検討	
⑥共生圏事業中間共有会	愛知県半田市	リアル	9-11月	共有会 35人 視察20人	<ul style="list-style-type: none"> 中間共有会 視察エクスカージョン 	<ul style="list-style-type: none"> ホスト:半田市、半田市地域循環共生圏推進協議会 出席:地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の中部エリア選定団体、関係者 視察先:ビオクラ、協力農家 など

①中間支援セミナー：地域循環共生圏づくり支援セミナー

第7期(3カ年度)における展開プラン

前年度 2024年度＝入門編

- テーマ：「地域循環共生圏づくり」とはどのようなことか、地域循環共生圏づくりで大切なこととは？

2024年度セミナーのまとめ冊子と、録画動画とあわせて公開中→

今年度 2025年度＝中間支援編／実践編(仮)

「中間支援」に焦点をあてた内容で開催予定

- 環境省事業の中間支援主体や昨年度の上市の事例をともにした取組発表、インタビュー／トークセッション等の実施を想定

次年度 2026年度＝総括編(仮)

- 共生圏事業の3年間の取組紹介(成果発表)
- EPO中部「活動評価手法」業務の成果発表／試行事例紹介 などを想定



地域循環共生圏づくりの現場(勉強会等)や、ステークホルダー等へ地域循環共生圏を説明するためのツール等として活用いただけるよう、セミナーの内容をまとめた冊子とセミナー録画動画を公開。
<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/27663.html>



共生圏づくり支援のための《入門編》《実践編》《総括編》の3セットからなるツール冊子・動画の作成・公開を予定。

② 共生圏づくり支援: 富山県上市町におけるローカルSDGs展開支援

昨年度に「地域循環共生圏フォーラムin上市町」(全2回)を開催

- ・ 協働コーディネーターの堺氏と茶木氏が企画、登壇、ファシリテーターとして協力
- ・ 第1回フォーラムのワークショップで地域課題解決/地域資源活用のローカルSDGs事業のアイデア出し
- ・ 第2回フォーラムでローカルSDGsアイデアの発表と実現に向けたディスカッション



フォーラム参加者から提案があった4つのアイデア

- ① 放置された柿の活用
- ② KAMIICHIハーブティーストーリー ~健康で美しく~
- ③ ヘチマ×和スタイル=ヘチ和(ヘチ和スタイル)
- ④ 放置竹林対策(竹の資源化と循環型農業を目指して)

いずれも「具体化したい」との意向あり

(コーディネーターへ相談等あり)

茶木氏へのフォーラム開催後ヒアリングより「プラットフォームか同好会、協議会等の何らかのグループを立ち上げて実現化に向けて活動していきたい」

今年度 「①放置された柿の活用」の試行実施を検討中(EPO支援で)

- 夏までに、茶木氏を中心とする上市町の地域住民有志の「準備会(仮)」立ち上げ
- 秋に、EPO中部主催イベント(柿の収穫体験+『共創』ワークショップなど)開催予定



↓ 昨年度フォーラム第2回での発表資料より(アイデア①の資料)

放置された柿の活用

地域循環共生圏フォーラムin上市町 グループ発表

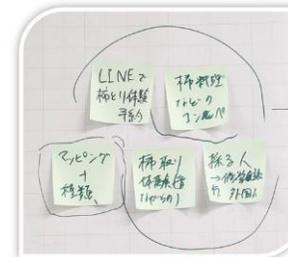
発表者 高井 昭博
上市町出身
高校卒業後町外へ移住
2023年上市町にUターン

身近な課題

- ・ 町内には柿の木が多数存在
- ・ 収穫されないまま放置されている
- ・ 2023年は、富山県内でも「熊」による被害が発生

取り組み

- ・ 地域との連携
- ・ 人の流れをつくる



これから

- ・ 豊富な資源の活用
- ・ 誰でもが参加できる仕組み

その他のEPO中部主催イベント・会合について

④協働コーディネーター意見交換会

- 夏頃実施で日程調整で、協働コーディネーター（共生圏事業選定の間接支援主体2名、ほかの環境事業採択団体所属1名を含めた）計8名による意見交換会を実施予定。
- 中部事務所から環境省の施策・事業に関する情報提供、協働コーディネーターから取組報告のほか
- 地域活動の課題感の共有、中間支援のあり方、横展開の可能性等についてディスカッションを実施予定

意見交換会で共有された情報、ディカッションした内容をほかの業務のヒントに

企画・検討
のヒントに

⑤共生圏づくり活動評価手法の検討

①中間支援セミナー（共生圏づくり支援セミナー）の開催、ツール化（冊子・動画等）

②上市における共生圏づくり（ローカルSDGs実践）のための支援

③「地域循環共生圏フォーラムin〇〇」シリーズの開催

- 「共生圏フォーラム」は様々な地域で開催してきたシリーズ企画（昨年度：上市フォーラム）。
- 具体地域の共生圏の概念普及、共生圏づくり支援が開催目的。
- 協働コーディネーターなどの中間支援主体の実践展開につながる事例づくりを目指す。

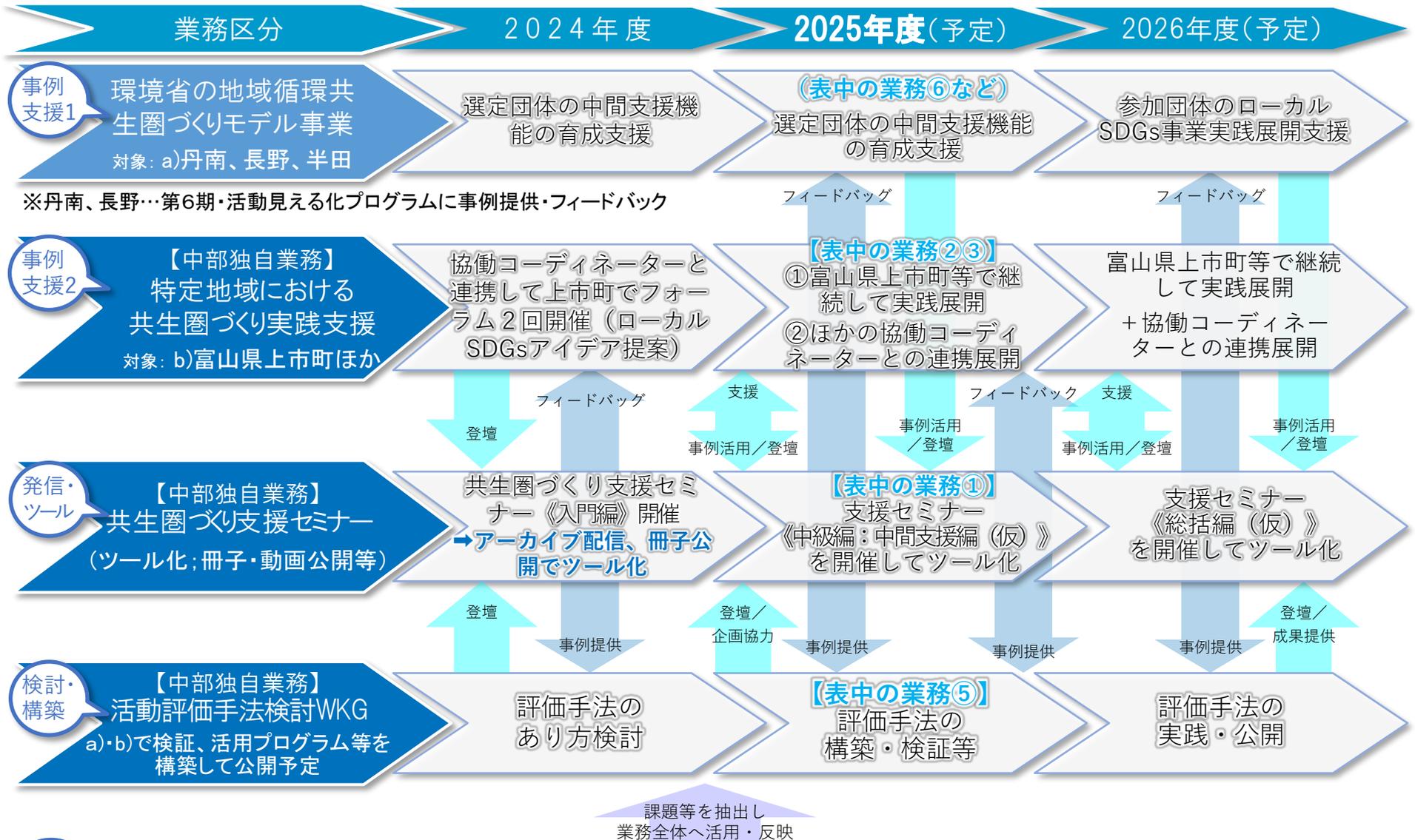
（次章参照）

（既出）

（既出）

第7期3年間でのEPO業務連関展開

(2025年4月時点想定)



地域情報共有 【表中の業務④】 協働コーディネーター意見交換会 ⇒地域の取組・活動で顕在化・潜在化している課題等の把握

2025年度中部地方環境事務所企画イベント／会合等

区分	エリア	設営	時期	参加者数 想定	テーマ／内容等	連携先／関係者／登壇者等
⑦ステークホルダー連携促進業務	中部				中部共進化座談会①	
	中部				中部共進化座談会②	
	中部				中部共進化フォーラム①	
	中部				中部共進化フォーラム②	
	外部主催 参画					
⑧自然資本活用に関する意見交換会等	愛知県 常滑市		10月 3日・ 4日		● SDGs子ども・ユースフェア(SDGs AICHI EXPO)に出展予定	
	石川県 白山市 等		未定		● 白山国立公園をテーマにしたフォーラム等開催予定	
⑨白書を読む会	開催地: 未定	ハイブ リッド	9月ま でに	50人	未定 (※中部地方環境事務所との企画)	<ul style="list-style-type: none"> ● 【未】リクルートによる就活フェア等との連携も検討中 ● 本省担当者による概説 ● 中部エリアの施策関係活動者・事業者等の登壇 など

「地域共進化」をテーマに
4回の会合／イベントを実施予定
 (次頁以降のスライド参照)

ともに進もう！ 「地域共進化」

※「共進化」は、第六次環境基本計画に盛り込まれた概念

「地域共進化」

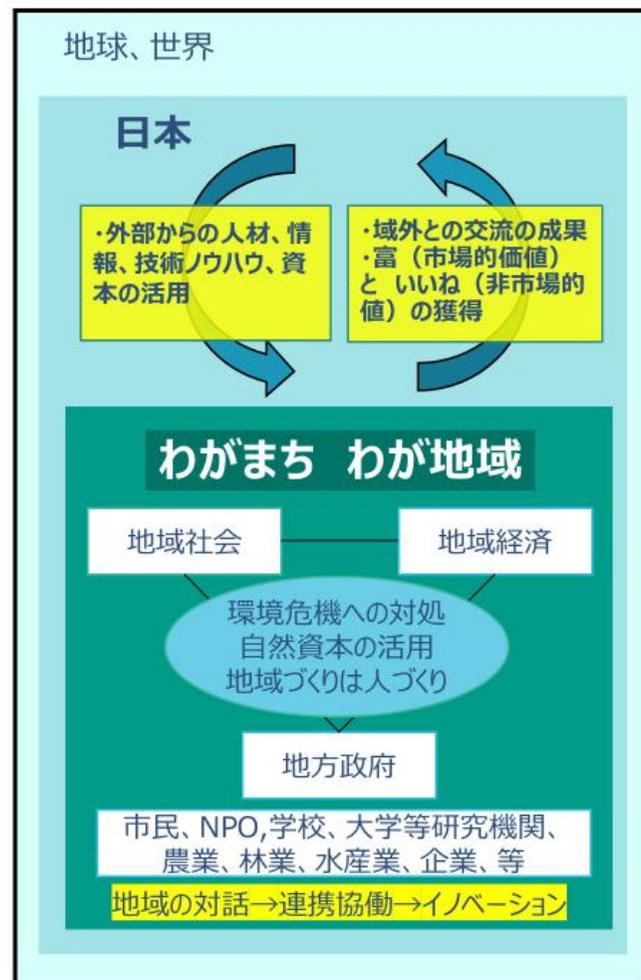
環境政策をきっかけにして、地域の様々な構成員（市民、NPO、学校、大学等研究機関、企業、行政等）が、対話し、連携し、ともに進み、地域経済・地域社会全体が、元気になる、危機に強くなるよう、共に進化する。

元気な人々が、くっついたり、離れたりしながらも、地域において情熱と行動が継承され、2030年に留まらず、さらに、2050、22世紀へと進む！

ニッポン・わがまちポジティブ！？

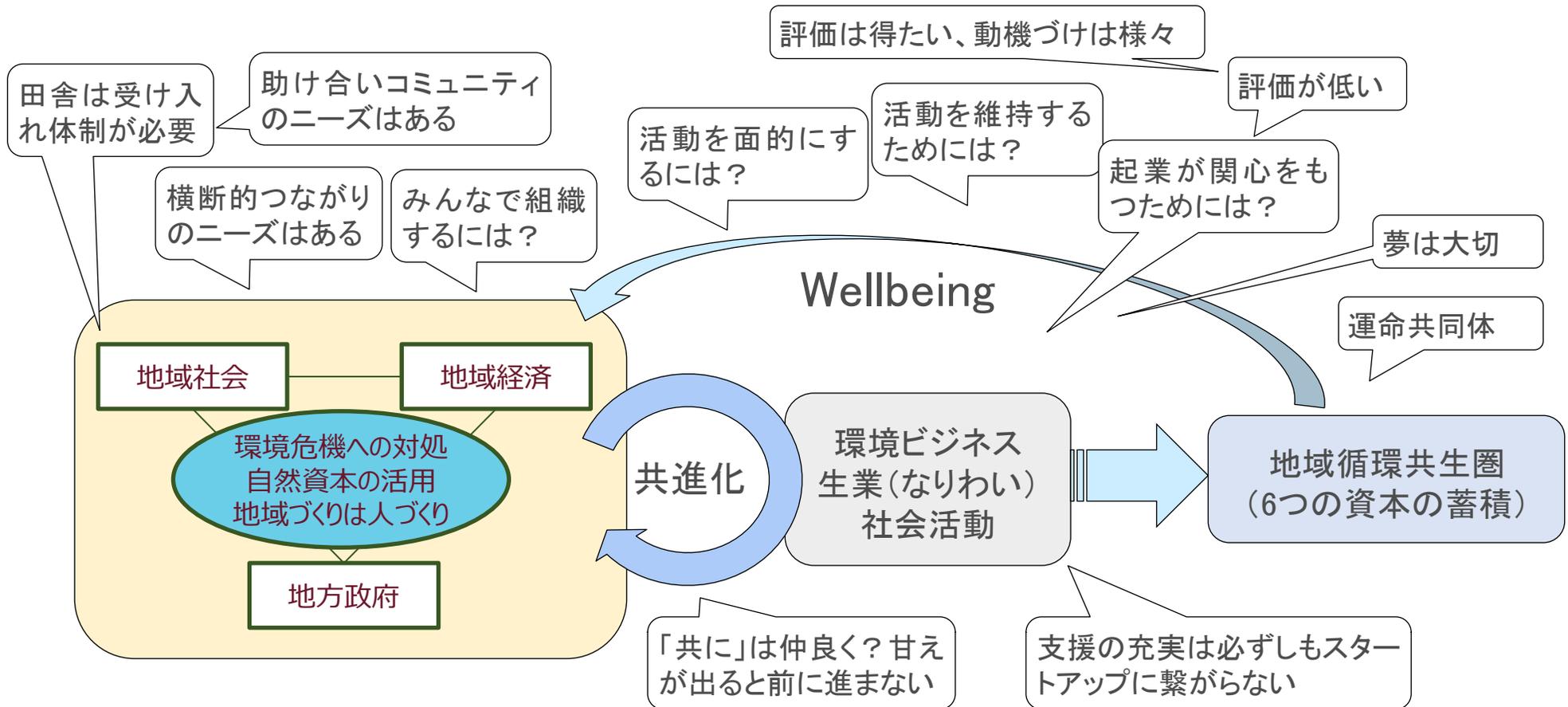
ともに語り、ともに考え、ともに動き続ける

ピンチはチャンス！ 脱炭素、循環経済、自然再興で地域活性化にチャレンジ



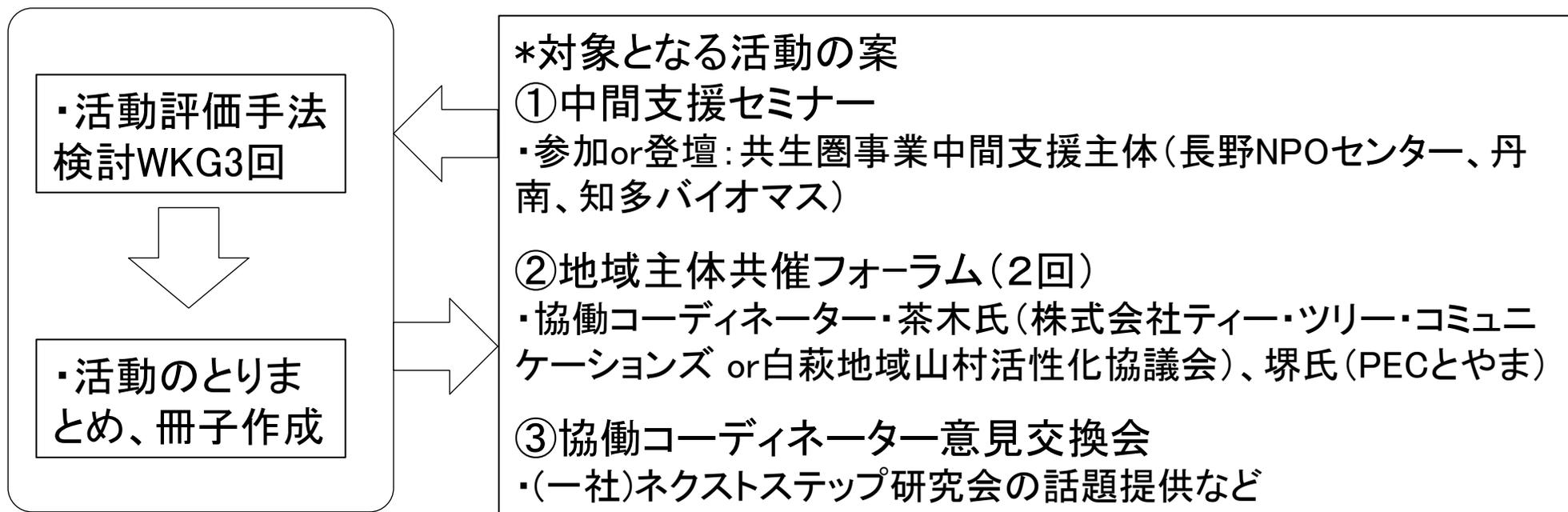
参考 Wellbeing・共進化・地域循環共生圏を軸とした3/7の議論

- 地域共進化によってWellbeingがもたらされるとはということか。
- 地域共進化を促進するにはどのような手立て（政策）が必要か
- 環境取組の事業展開、市場から見える環境の課題



独自プログラム構築：
地域循環共生圏づくりの活動評価の検討
(⑤活動評価手法検討WKG)

活動評価手法検討WKG活動概要(仕様書より)



自治体や協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、活動の地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック

第6期までの成果を踏襲し、有識者(大学教授級、3名程度)によるワーキンググループにより、地域循環共生圏づくりの活動の評価手法を検討するとともに、検討結果を「上記ア、イ」*にフィードバックする。また、成果を冊子にまとめる。

活動評価手法検討WKG（表：主催イベント／会合案の項目④）

学び合いプロジェクト有識者検討会

古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター教授、中部ESD拠点協議会事務局長

水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表

堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長

原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員

【オブザーバー】 環境省 中部地方環境事務所環境対策課

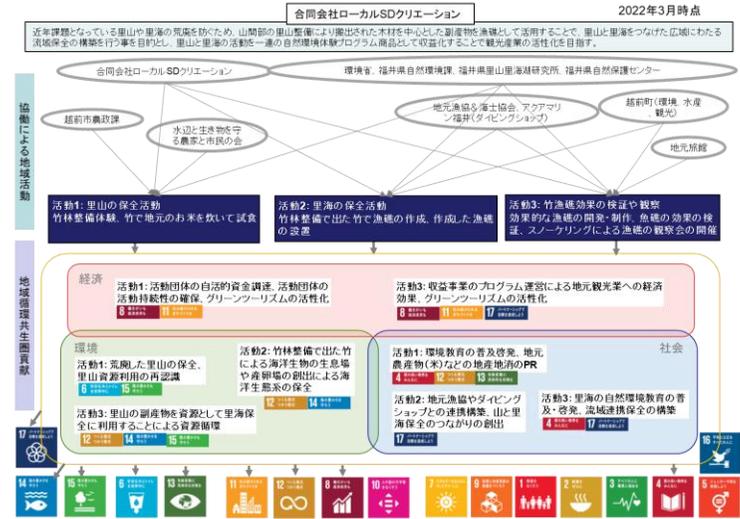
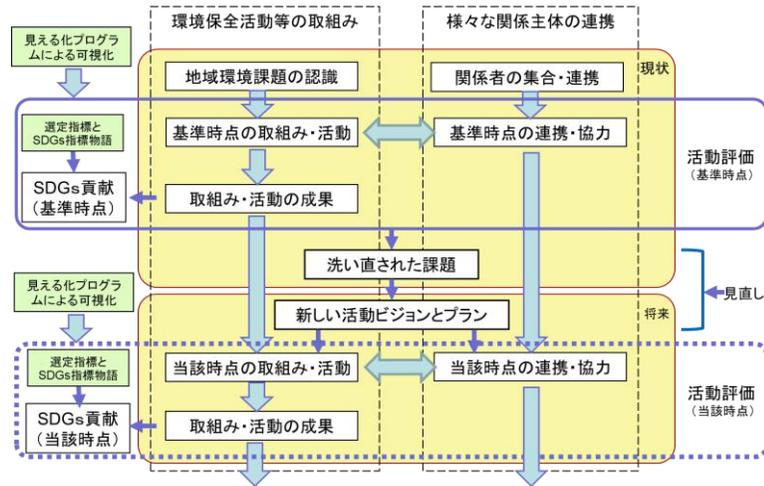
【事務局】 清本三郎 EPO中部統括

富山	6/5	第6期評価手法実績共有、第7期検討計画策定
福井	9～10月	評価実績を活用した事例検討（2事例）
名古屋	11月	事例フィードバックの検討と課題抽出

第6期までの独自プログラム構築の実績

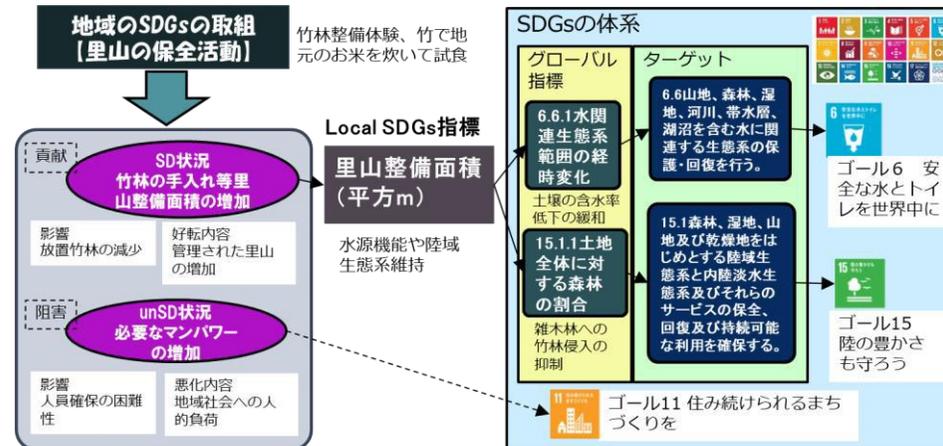
活動見える化プログラム

協働取組と環境・社会・経済への貢献の状況をその時点で表す



SDGs指標物語

選択した指標がSDGsの達成においてどのような貢献を表せているのかを言語化、可視化する

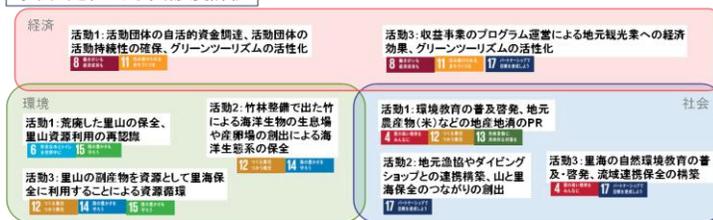


三つの評価分類に対する評価ツールの位置づけ

達成度評価・貢献度評価・成長度評価

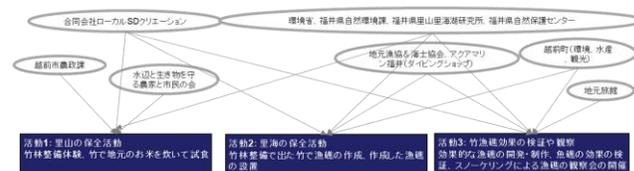
分類	内容	活動見える化プログラム	SDGs指標物語	SDGs指標物語・選定指標
達成度評価	目標をどれだけ達成できたかを評価する。	-	-	目標を定めた場合は、達成状況を定量的に評価
貢献度評価	ありたい姿にどれだけ貢献できたかを評価する。	活動内容が社会、経済、環境のどの分野か、SDGsのどのゴールに貢献しているかを可視化して定性的に評価【事例1】	選定指標がSDGsのどのグローバル指標、ターゲット、ゴールにおける成果を定量的に評価【事例2】	貢献しているグローバル指標、ターゲット、ゴールにおける成果を定量的に評価【事例3】
成長度評価	取組がどれだけ成長、発展できたかを評価する。	協働ネットワークが現状どのようになっているかを可視化、複数の時点を比較して変化を示すことで成長度を定性的に評価【事例2】	-	複数の時点を比較して変化を示すことで成長度を定量的に評価【事例3】

事例1 定性的な貢献度評価 【活動見える化プログラム】の「地域循環共生圏貢献」

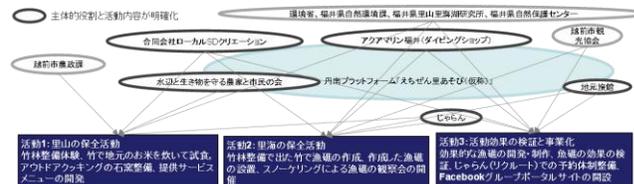


事例2: 定性的な成長度評価

【2022年3月時点のもくろみ】思い描いていた段階であり、具体的な役割は明確ではなかった。



【2024年2月時点の状況】当所に比べ、誰が何をやるのかがはっきりし、活動内容が充実化、明確化してきている。丹南プラットフォーム「えちぜん里遊び(仮称)」のビジョンが共有され、各々の活動主体が連携しながら具体的な活動に取り組む状況となってきた。



事例3: 定量的な貢献度評価、成長度評価

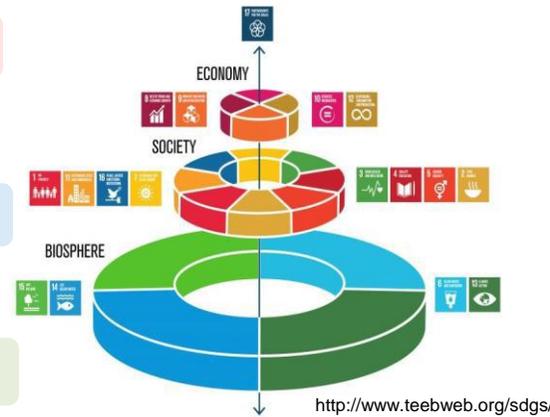
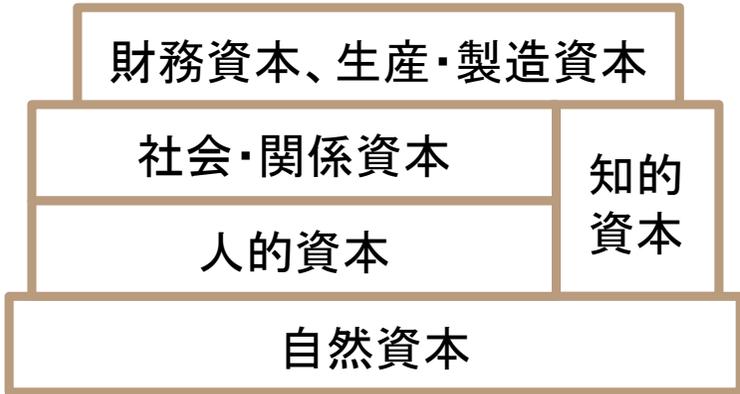


選定指標	侵入竹林境界整備延長 (m)
指標	6.6.1、15.1.1
ターゲット	6.6、15.1
ゴール	G6、G15
基準2022年3月	0m
評価2024年2月	総延長120m

基本となる価値基準：ローカルSDGs活動の効果が環境，社会，経済の各分野に波及し，それにより，環境，社会，経済のそれぞれに関わる分野の資本が蓄積されること

- 崩れない資本のバランスが持続可能性と強靱性にとって重要

六つの資本の積み木



六つの資本：IIRCオクトパスモデル(事業による六つの資本の増加)による

- ・財務資本
- ・製造資本
- ・知的資本
- ・人的資本
- ・社会・関係資本
- ・自然資本

- その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、チェックリストの考え方の例

六つの資本	評価項目の例
1 財務資本(地域循環 財務資本)地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とす ●地域への投資
2 製造資本(地域循環 生産・製造資本)地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消 ●資源循環 ●再生可能エネルギー ●防災・減災
3 知的資本(地域共生 知的資本)：地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	●教育 ●住民自治 ●伝統的文化・知恵 ●高等知見 ●ICT活用
4 人的資本(地域共生 人的資本)：地域の多様な人々が共生できているか	●主体的・意欲的な人 ●愛着・誇り・責任感のある人 ●包摂社会
5 社会関係資本(地域共生 社会関係資本)：地域の繋がり・コミュニティづくりにつながっているか	●対話型の議論・交流 ●相互信頼 ●公正 ●共助
6 自然資本(地域循環共生 自然資本)：地域の自然・生物多様性が守られているか	●生物多様性 ●グリーンインフラ・景観の向上 ●脱炭素 ●自然資源 ●農地・漁場の持続可能な利用

富山県上市町の協働コーディネーター、茶木氏にヒアリングし2事例の取組について試行

里山の駅つるぎの味蔵の純国産メンマプロジェクト

メグスリノキのお茶、九宝茶の開発、販売

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト(試行) 作成 250221

テーマ	富山県上市町 里山の駅つるぎの味蔵の純国産メンマプロジェクト	概要	竹林整備で発生した伸びたタケノコを活用したメンマの製造販売
活動状況	放置竹林という地域課題への対応が可視化されることで関係者への説得力が増し、持続的に活動が進んでいる。純国産メンマのストーリー化とブランディング化により販売は順調に活動は拡大傾向にある。		
六つの資本	評価項目	チェック	チェックの判断理由
1財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とすようになっているか ●地域への投資になっているか その他(地域所得の増加に貢献している)	○	里山の駅つるぎの味蔵の重要商品として地域外貨を獲得
2製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消を目指しているか ●資源循環を目指しているか ●再生可能エネルギーを使おうとしているか ●防災・減災に役に立つか	○	地域の竹林からの資源を有効活用している
3知的資本 (地域共生 知的資本):地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	●様々な場面の教育を進めようとしているか ●住民自治を取り入れようとしているか ●伝統的文化・知恵を活用しようとしているか ●高等知見の導入をしようとしているか ●ICT活用を進めようとしているか	○	伐採体験やメンマ製造見学など学校教育や社会教育のフィールドとして機能している。
4人的資本 (地域共生 人的資本):地域の多様な人々が共生できているか	●主体的・意欲的な人がいるか ●愛着・誇り・責任感のある人がいるか ●包摂社会を目指しているか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員が増加している
5社会関係資本 (地域共生 社会関係資本):地域の繋がりが、コミュニティづくりにつながっているか	●対話型の議論・交流を作ろうとしているか ●相互信頼を醸成しようとしているか ●公正さに重きをおいているか ●共助を取り入れようとしているか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員の交流が生まれている
6自然資本 (地域循環共生 自然資本):地域の自然・生物多様性が守られているか	●生物多様性を守ろうとしているか ●グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか ●脱炭素を進めようとしているか ●自然資源の保全活用を進めようとしているか ●農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか	○	竹林整備で山林の保全が図られる
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の課題解決の貢献し 6 つの資本すべてについて増加させる機能を果たしている。プロジェクトとして地域循環共生圏構築に貢献していると評価できる。		

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト(試行) 作成 250224

テーマ	富山県上市町 メグスリノキのお茶、九宝茶の開発、販売	概要	大岩山日石寺で折禱日に伝統的に振舞われるメグスリノキのお茶を健康茶を地元産品として商品化、販売
活動状況	商品開発とホテル・土産物店等の販路の確保に成功し、ストーリー化、ブランディング化による事業が持続的に行われている。当初もくろんでいた地元産原料による製造については困難が伴い断念。また事業への関係者の巻き込みは十分ではなく、一企業の製造販売事業として活動。		
六つの資本	評価項目	チェック	チェックの判断理由
1財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とすようになっているか ●地域への投資になっているか その他(地域所得の増加に貢献している)	○	富山県上市町に所在する製造販売企業の売り上げとして地元産品に貢献
2製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消を目指しているか ●資源循環を目指しているか ●再生可能エネルギーを使おうとしているか ●防災・減災に役に立つか	△	製造販売を地域外の依存する割合が高く、十分な貢献していない
3知的資本 (地域共生 知的資本):地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	●様々な場面の教育を進めようとしているか ●住民自治を取り入れようとしているか ●伝統的文化・知恵を活用しようとしているか ●高等知見の導入をしようとしているか ●ICT活用を進めようとしているか	○	伐採体験やメンマ製造見学など学校教育や社会教育のフィールドとして機能している。
4人的資本 (地域共生 人的資本):地域の多様な人々が共生できているか	●主体的・意欲的な人がいるか ●愛着・誇り・責任感のある人がいるか ●包摂社会を目指しているか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員が増加している
5社会関係資本 (地域共生 社会関係資本):地域の繋がりが、コミュニティづくりにつながっているか	●対話型の議論・交流を作ろうとしているか ●相互信頼を醸成しようとしているか ●公正さに重きをおいているか ●共助を取り入れようとしているか	△	当初もくろみである。関係者の巻き込みを断念した。
6自然資本 (地域循環共生 自然資本):地域の自然・生物多様性が守られているか	●生物多様性を守ろうとしているか ●グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか ●脱炭素を進めようとしているか ●自然資源の保全活用を進めようとしているか ●農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか	△	当初もくろんだ地域資源の製造を断念
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の財務資本増加には貢献しているものの、当初もくろみから離れ地域外の製造資本を用いており、人的資本、社会資本、自然資本への貢献も見られない。ローカルSDGs 活動としては不十分と評価される。地域課題への対応との関連性を可視化できず、関係者の巻き込みがうまくいかなかったとの当事者見解が重要な要因と考えられる。		

その他

そのほか連携・協力対応

高校生インターンによる共生圏事業への協力企画

- 高校のインターンシップ・プログラムに協力し、夏休み3日間、高校1年生の職業体験を受け入れ予定(今年度で4年目)。
 - 過去3カ年度は、EPOがブース出展したSDGsイベントに参加してもらい、学生出展ブースを取材するなどした記事をインターン生に作成してもらった。記事はEPOウェブサイトで公開している。<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/25415.html>



今年度は環境省事業の選定団体への取材を依頼予定

- 環境省事業(地域循環共生圏づくり支援体制構築事業)に選定されている「半田市地域循環共生圏協議会」の関係施設(バイオマス発電施設や野菜工場等)の訪問や、協議会メンバーへのインタビュー等による取材記事作成をインターン生に行ってもらう予定。
- 記事原稿はウェブ公開すると共に、《高校生目線のアウトプット》として協議会へも提供し、取組説明が難しくなりがちで悩んでいることへのヒントにもなることを期待。



ピオぐるファクトリー
HANDA

地球環境基金／全国ユース環境活動発表大会の支援

※ (独)環境保全機構(ERCA)との連携業務 <https://www.erca.go.jp/>

- **【継続】**全国ユース環境活動発表大会への協力
- **【継続】**地球環境基金助成金要望に関する広報等への協力
- **【新規】**持続可能な地域実現に向けた戦略検討業務
 - ① 「環境保全活動」「協働取組」に関する地域のニーズやシーズ調査
 - ② 地域関係者と連携して課題解決に向けた対策のあり方検討(ステークホルダーミーティング開催等)
 - ③ 事例の蓄積を通じて得られた知見を全国8EPOで共有し、地域課題解決の加速化に向けた戦略検討

愛知県環境学習コーディネート業務

※ 愛知県からの受託業務 <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/0000060443.html>

- 環境学習に関する学校等からの相談・照会依頼に対する相談対応、コーディネート業務を実施。